

令和元年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホーム ポランの広場いなせ

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500105		
法人名	株式会社 文化タクシー		
事業所名	グループホーム ポランの広場いなせ		
所在地	〒023-1132 岩手県奥州市江刺稲瀬字水先629		
自己評価作成日	令和元年9月1日	評価結果市町村受理日	令和元年10月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

2011年2月1日に認知症対応型共同生活介護施設と小規模多機能型居宅介護施設を併設、江刺稲瀬地区に開設させて頂き今年で9年目「小規模多機能ホーム・グループホームポランの広場いなせ」という介護事業所です。ポランの広場とは宮沢賢治の幻想豊かな童話のひとつで、皆が元気で自分らしく楽しめる広場、明日への活力を養う事が出来る理想郷という内容です。その理想郷が決して童話の中だけの幻想世界ではない事を目指す場所でありたいと思う気持ちから宮沢家様より著作物の使用許可を得て命名致しました。今年で開設から9年目となりますが、まだまだ理想郷と呼べる状況では有りませんが、少しでも近づける為には更なる努力を続けて行かなければならないと考えています。今後も介護理念を念頭に置き利用者様を尊重し明るい共同生活の場を構築して行きたいと思っております。又、従業員には更なる研修等の場を提供し質の向上に努めて行きたいと考えています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajikensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0391500105-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田や畑、リンゴ園に囲まれた広い敷地に、小規模多機能型居宅介護事業所と併設されており、利用者が自分らしく楽しめる広場、明日への活力を養う場(宮沢賢治のポランの広場)であることを理想に掲げている。広場の実現に向け、事業所理念である「4つの共に」を念頭に置き、利用者や家族等からの意向や思いを全職員で真摯に受け止め、介護技術の向上に努力を重ね、良質の介護サービスが提供されていることが窺われる。自治会の水害防災訓練に利用者とともに参加し、災害対策の充実と強化を図っている。また、近隣の保育園とのお遊戯やふれあいの来訪も毎年継続しており、地域住民との交流に積極的に取り組み、地域の一員として認知されている。運営推進会議には、利用者・家族、駐在所、消防署、区長等の委員から様々な意見が出され、活発な会議運営がなされている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年9月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

令和元年度

事業所名：グループホーム ポランの広場いなせ

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念については職員全体会議にて議題として提案し意見を出し合い作成しました。尚、スタッフコーナーに掲示し毎朝のミーティング後に職員全体で唱和を行い実践している。	数年前に、分かりやすい表現にしようと職員と話し合い作成した事業所の介護理念「共に向き合い、共に笑顔で、共に支え、共に生きる」を事務所内に掲示するとともに、毎朝のミーティングで唱和している。職員は、理念に基づき、利用者への良質な介護の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	令和元年7月6日に水害を想定した上三照連合自治会防災訓練に参加する事で近隣の方に事業所のアピールを兼ね職員3名利用者様3名参加した。又、改めて災害時の非難経路を再確認する事が出来て非常に良かったと思います。	地域の自治会から、総会案内や回覧板が回されているほか、地域の水害に係る避難訓練を一緒に行っている。毎年、近隣の若葉保育園児との遊戯や励ましの交流を実施するとともに、地域の手踊りのグループの慰問、事業所の夏祭りに近所住民の参加など、機会を捉え地域と積極的に交流している。	
3		○事業所を力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用しながら地域の方々には、グループホームと認知症への御理解を促している。これからは職員、利用者の地域活動への参加を増やして地域貢献に務めていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では委員の皆様には二ヶ月間の事業所の取り組みの他、利用者入居、活動状況等もこまめに報告し又、来月の活動内容も事前に報告している。委員の皆様からは色々なアドバイスを頂きこれからのサービス向上に活かしていきたいと考えています。	運営推進会議は、現実的に参加が難しいとはいえ利用者代表、利用者家族代表、行政区長、民生委員及び奥州市の保健福祉の担当者等で構成し、奇数月に開催している。事業所が活動報告し、委員から地域の避難訓練の状況、近所の小学校運動会への見学のお誘い、駐車場の外灯設置等について、毎回活発な意見交換が行われている。委員には、避難訓練実施の回覧や夏祭りのチラシ配布の依頼、駐在所便りの提供、救急救命講習の予定等、情報や助言を頂きながら、協力を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議にも参加して頂いている状況です。雑談を交えながらでは有りますが、委員の皆様方にも認知症への適切なアドバイス、助言をして頂き事業所でも非常に助かっている状況です。	毎回、江刺総合支所から担当職員が推進会議に出席し、事業の運営や介護に関する助言を頂いている。要介護認定の申請では支所に出向いて手続きしながら、様々な情報の交換を行っている。市主催の集団指導や介護保険等の説明会に出席し、適正な介護保険の運用に努めている。市委託の介護相談員(2名)が年2回来所している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待、身体拘束廃止についての研修を実施した事も有り代表者及び職員の考え方も向上している。これからも会議、研修等を活用して意識改革にも努めていきたい。	身体拘束適正化委員会を、管理者、介護支援専門員、職員で3か月に1回開催している。指針も作成し、身体拘束しないケアを心掛けている。研修については、外部から講師を招き、高齢者への身体拘束・虐待防止をテーマに実施している。スピーチロックについても、内部で研修を重ねている。立ち上がり不安定な利用者(1名)がセンサーマット使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待、身体拘束廃止についての研修を実施した事も有り代表者及び職員の考え方も向上している。特に声がけには十分注意する様に朝礼などでは職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度については当事業所での利用者様では実績が無かった為に研修会を開催するに至らなかった。今後は年間研修に組み込み職員の質の向上に務めて行きたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には契約書、重要事項説明書を提示して利用者様、家族様が十分理解できる様に説明に時間をかけている。又、質問内容にも十分納得して頂ける様に出来るだけわかりやすく説明している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に利用者様家族様の意見や要望をきいている。運営推進会議にも家族様代表として参加して頂き、他の委員の方と一緒に意見交換を行う等して今後の運営や支援に反映させる様に務めている。	家族からは、面会時、利用者の状況を伝え、要望などを積極的に聴き取っている。運営推進会議に家族代表も出席し意見を頂いている。これまでに、介護支援専門員や看護師が家族との相談・連絡の中心を担っていたが、利用者の情報に詳しい居室担当者に役割を移して行く予定である。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員全体会議において職員から提案を受け入れ改善出来る所に関しては積極的に受け入れ今後の運営に反映している。	毎月、事業所全体の会議を開催し、職員からの意見・提案を運営に取り入れている。最近では、トイレの手すりを設置している。調理担当のパート職員から、日勤職員の業務軽減を図るため勤務時間変更の提案があり、時間調整をするなど、事業所の円滑な運営に取り組んでいる。今年から、職員の資質向上のため、年2回管理者との個別面談を実施する予定である。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績、勤務状況を把握し職員に自己評価をしてもらう事で介護職員処遇改善加算金の報酬の反映につなげ職員の意識向上に努めている。又、職場環境の整備については職員の意見等は全体会議の場で受け入れ変更出来る点は随時、変更出来る様に心掛けている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修のお知らせが有る場合は掲示したり直接、個人に管理者からお願いし参加している。その他に年間行事に各種研修を取り込み年間計画として取り扱い職場全体でスキルアップできるように取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いわて地域密着型サービス協会での定期研修会や協会内のブロック活動への参加などを活かし管理者及び職員、サービスの向上に活かせるように努力している。			
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	受け入れ段階で本人様との面談も行い意見要望をあらかじめお伺いしてケアプランに組み込む事で職員一人一人変わらぬサービスを提供出来る様に務めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	受け入れ段階で家族様が困っている事、不安に思っている事などをお伺いして安心してサービスを受けれる様、提供出来る様に務めている。 又、ご利用途中面会などで来所された際には気軽にお声を掛けて頂ける様にこちらからも積極的に声掛けしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受け入れ面談の際に本人様、家族様が考えているサービス内容をお聞きし、こちらから提案、検討した上でサービス内容を決定している。又、御利用中でも状態変化があった際は家族様とは連絡を密に取り相談し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	事業所の介護理念を念頭に置き職員と利用者様が同じ空間を共有し生活しながら、お互いを尊重しあい理解する事で信頼関係を構築出来る様に務めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様に利用者様の生活状況、身体状況を常に報告し安心してサービスを受けれる様に務めている。又、時折適度な助言をする事で友好的な家族関係にも務めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様、親戚、知人等の面会の際にはゆっくり過ごして頂ける環境を提供出来る様に心掛けている。又、これまでの家族様との繋がりが変わらぬ様に、自由に連絡、外出や外泊できる支援も行っている。	介護支援専門員は、馴染みの人や場など、入居時にアセスメントした情報を、職員に伝え共有している。家族や知人の面会を大事にし、ゆったり過ごせるよう支援している。毎月、馴染みの訪問理容師が事業所に来て散髪しているほか、江刺甚句の見物などで外出を希望する利用者を職員が同行するなど、本人の昔馴染みを大切にした介護に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性などを考慮して座席を決めている。年に数回、席替えをして他の利用者様との交流が出来る様に工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了してもこれまで構築した関係を大切にいつでも相談に応じることが出来る様に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス利用開始から常に本人様の意向を大切に共に向き合う精神を忘れずに、生活の中から一つでも心の声を拾えるように務め実践している。	職員は、日々の係わりの中で得た利用者の思いや意向を気づきノートに記録し、ミーティング等で共有している。利用者毎の担当職員を決め、きめ細やかな把握に努めている。職員は出勤時、表情を観察しながら利用者に「調子どうですか」等、必ず声掛けするようにしている。手作りの食事を提供する際には、利用者の希望をこまめに聴き入れ丁寧に本人の思いに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様の事前情報を確実に職員に周知し日常生活でのコミュニケーションに活かせるように務めている。日常会話で得た情報は担当者会議等を利用して再び各職員に周知している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の個々の状態変化などを経過観察し経過表に記入し申し送りで報告する事で施設全体の情報共有に務めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様個々の生活状況を経過観察し家族様などを交えた担当者会議にて相談報告しケアプランの見直しに務めている。	介護計画は、管理者、介護支援専門員、利用者担当職員で3か月毎にモニタリングし作成している。認知症が進行したり、状況に変化あった場合、家族や看護師を交えてケアプラン会議を開き、介護計画の見直しをしている。介護計画は、職員全員に回覧し意見を聴取するとともに、家族の同意を得て確定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様とのコミュニケーションなどで得た情報を記録記入し職員間で情報共有し会議等を利用して介護計画の反映に務めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様の状態やニーズに変化があった際には本人様、家族様に相談しながら柔軟に対応出来る様に検討を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事に参加する事で事業所のアピールを兼ね利用者様の強調性の維持に努めている。又、保育園や手踊りの会の方に施設行事への参加をお願いして施設内での楽しみを増やし心身の向上を図っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医への定期受診はかかさずに出来るように家族様と連携し対応している。又、状態変化が見られた場合等は内容を報告し指示を受けられる体制を整えている。	かかりつけ医へは、家族が付添い受診している。家族が同行できない場合は、職員が同行している。かかりつけ医以外の医療機関も事業所周辺にあり、必要に応じて受診している。受診結果は家族や職員から看護師に報告したうえで、職員間で情報を共有している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は利用者様の日常生活の中で得た情報を記録、共有し様々な体調の変化に対応できるように看護師との連携している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院の際には病院の医療連携室と情報交換しており今後の支援方法についての医療カンファなど利用者様が安心して生活できる様に家族様を交え話し合いを行っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の際、当事業所では重度化や終末期等の支援について行っていない事の事前説明をして家族様に納得して頂きサービスの提供をしている。又、介護度の変化に伴い他施設の紹介、申し込みのお願いも促している。	入居時に利用者と家族に、重症化や終末期の支援に関し看取りを行なっていないことを説明し、同意を得ている。併せて、介護度が高くなった場合には、必要となる他施設への申し込みを勧め、事業所としても、重度化に伴い病院や特別養護老人ホーム等を紹介するなど、スムーズな移行ができるよう支援体制を整備している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを参考にして速やかに対応出来る体制を整えているとともに心肺蘇生方法などを受講できるように消防署に働きかけをしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域全体での年一回の水害を想定した避難訓練に職員、利用者様参加している。又、事業所独自としては年2回の火災訓練を実施しており内1回は消防署の立会いをお願いしている。	事業所周辺は、市のハザードマップで浸水地域に指定され、地域全体の水害想定避難訓練に利用者と一緒に参加している。指定の避難場所は地域の小学校となっており、遠いことから近くの県緑化センターに避難することとしている。事業所独自には、職員2名体制での夜間想定訓練を実施している。非常時に備え、飲料水、乾パン、カセットコンロ、反射式ストーブ等を備蓄している。	明るいときは見えていても、夜間見えない環境での避難の課題や不都合を確認し、その対応を検討することが望まれます。訓練については、先に職員が夜間を体験したうえで、利用者も一緒に参加するなど、まずは小規模から工夫しながら実施することを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の人格を尊重してコミュニケーションを取る様に各自心掛けしている。	利用者とは、敬語で会話している。入浴や排泄の介助の際には、羞恥心に配慮し、声掛けのマナーを守りながらフランクな対応を心掛けている。図らずもスピーチロックと思われる言葉を使ってしまった場合には、最後に優しい言葉でフォローするよう指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とのコミュニケーションの中で一人一人の希望などを傾聴し自己決定できる様に配慮している。又、個々の生きがいを見つけ出せる様に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様が日々の暮らし方をどのように過ごしたいかをお伺いし一人一人のペースに合わせて趣味などを勧めたりより良い生活のリズムが構築できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族様、利用者様から理容希望を伺い訪問理容を利用している。身だしなみや清潔感にも配慮し日常の洋服選びは個々をお願いしている。又、出来ない方には職員から声かけをすることで衣類選びを楽しんで頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お誕生日会等で特別食を作る時には職員の見守りの中で食材を切ってもらい調理する楽しさを思い出して頂いている。	事業所での食事は、主菜、副菜を委託して作っており、職員は、ごはん、みそ汁、ミキサー食などを作り配膳している。職員の意見を取り入れ、朝食に1品を追加で作り提供している。手作りおやつや誕生日のケーキのデコレーションは、利用者と一緒に作っている。行事食として正月のお餅やお節、花見のお弁当、夏まつりの焼きそば、或いは、外食ツアーとして観光地へドライブしながら外食するなど、利用者からの希望を取り入れた食事提供に心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副菜については管理栄養士いる外部業者に委託して栄養バランスを管理している。水分量については主にケアマネ、看護師と相談して日々の水分量を決めている。又、水分、食事制限のある方については主治医に相談し医療連携に務めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の能力に応じ声がけ見守りの中で口腔ケアを行い常に口腔内状態の確認をする事で異常が見られた場合には家族様に連絡し歯科受診をおねがいしている。又、自立できない方には一部介助全介助を行っている。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記入する事で一人一人の排泄パターンを確認しトイレ誘導を行っている。又、出来る方には紙パンツから布パンツの使用を促し自立支援に努めている。	排泄については、衣食住と同じ重要な事と捉え支援している。排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握し、適時トイレに誘導している。布パンツの利用者が、6,7人おり、他はリハビリパンツ等を使用している。リハビリパンツで入居された利用者に職員が細目に声掛けし、布パンツに改善した方もいる。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘解消の為に適度な運動、適度な水分補給の声掛けを促している。又、内服薬の対応も行っている。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者様の通院日等を考慮して事前に入浴日を伝え少しでも入浴を楽しむ事が出来る様に着替えの準備が出来る方には声掛けをしながら事前準備のお手伝いをお願いしている。又、状況により入浴出来なかった場合も再度、声掛けをして入浴を楽しむ事が出来る様に支援している。	お風呂は、原則週に2回入浴しているが、入浴を嫌がる利用者や入浴日でない日は、洗身や足浴などで対応している。事業所併設の小規模多機能ホームの特浴や大浴場を利用する方もおり、利用者の気分や状態により事業所の家庭風呂と使い分けした、入浴支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活リズムを把握して十分な休息時間が取れるようにその都度、声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋一覧、処置確認表作成しており各自で内容確認出来る体制を整えている。服薬する時は職員同士でダブルチェックを行い誤薬がない様に務めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	読書、塗り絵、裁縫、写経など個々の趣味を楽しめる様に支援している。又、お手伝いの好きな方には洗濯物を干したり畳んだり体を動かす事で少しでも気分転換が出来る様に声掛け実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の外出、外泊希望は基本的に家族様に対応をお願いしている。事業所では定期行事として季節を感じて頂きたく初詣、お祭り、お花見、紅葉など季節に応じた外出ドライブを実施している。	外出は、天候をみて、利用者の希望を取り入れ、花見、紅葉等季節のドライブや外食ツアーを楽しんでいる。利用者の家族へも、外出や外泊を勧めている。散歩は、事業所周辺の田園風景を楽しみながら、職員が同行している。散歩できない場合は、外気浴を兼ね、駐車場の朝顔グリーンカーテンや花壇の観察を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来る方については小額にてお願いしている。パンなどの訪問販売が来る時には購入することがある。又、施設預かり金をお願いをしていて外出先で食事された時、個人の私物を購入する時等に使用している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様、知人からの電話対応は随時行っている。本人様からの申しでに対しては状況、時間帯などを考慮して柔軟な対応に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人一人が心地よく生活出来る様に座席の配置を工夫したり定期的に座席の変更も伝えお願いしている。共有区間は特に匂い明るさにも気をつけている。又、壁のコルクボードには季節ごとに行った、各種レクでの写真を貼る事でいつでも利用者様、家族様が見て楽しめる様にしている。	居室がコの字型に配置されており、死角があることから、廊下に監視カメラを設置し、事務室のモニターで確認している。共用のホールの壁には、レクリエーションや誕生会の光景、甚句祭りの見学、季節のドライブ時の写真、利用者が製作した季節ごとの作品が掲示されている。食卓、椅子、テレビ、空気清浄機、エアコンを設置し、明るく清潔感のある生活環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小規模、グループホームの共有区間は常に解放されている為、利用者様が好きな時に自由に行き来出来る様になっている。お好きな方同士で会話されたり、ゲームされたり楽しめる空間作り心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が今まで使用していた物をはじめこれから必要と思われる物を本人様と家族様に相談して頂き、本人様が心地よく生活出来る様に支援している。	居室には、ベッド、整理ダンス、パネルヒーター、エアコン、加湿器、ナースコールが設置されている。利用者が持参した椅子やテーブル、テレビが置かれ、位牌、家族写真、事業所で撮影した写真が飾られている。室内の清掃は職員が実施しており、清潔な居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、トイレには名前を表示している。時折トイレの方向が分からなくなる方の為に矢印にて方向指示を表示している。又、安全の為に廊下、トイレには専用の手すりを設置し声掛けにて使用の促しをしている。		